

# 環境産業委員会

委員長 山本裕三

当委員会では年間テーマを「公共施設マネジメントにおける目的と成果の観点による施設のあり方検証について」とし、市内の公共温泉施設をモデル施設として調査研究を行いました。

## 調査研究を行うにあたり

当市には、「市民の健康増進」を目的とした「森の都ならここの湯」と、「大東温泉シートピア」の2つの公共温泉施設があります。しかし、維持管理費や老朽化による施設の修繕費などの財政負担が生じています。この財政負担を解消するためには、当初の目的だけでなく、観光、産業振興についても検討していく必要があるのではないかという考えから調査研究を始めました。

## 調査方法

現場主義に基づき、現地へ赴き当市にある2つの温泉施設と比較しながら、様々な温泉施設運営者や自治体関係者との意見交換を重ね、検討を行いました。



官民の温泉施設の調査(川根温泉ふれあいの泉・島田市)



事業者との話し合い(テレビ会議)



温泉施設との相乗効果が期待される施設を調査  
(三ツ星オートキャンプ場・川根本町)



民間に賃貸した温浴施設を視察  
(オーパーク おごせ・埼玉県越生町)

## まとめ

- 設置目的については、福祉の充実から、地域の方を大事にしながらも、施設に付加価値をつけ交流人口を増やす方向に変更する必要があること。
- 料金設定については受益者負担の観点から検討する必要があること。
- 民間企業の提案を幅広く伺い、民間投資をより誘発する条件整備を行う必要があること。